

編 集 後 記

「おかあさん、セミのぬけがらがあつたよ」。わが家の夏は長い間このことばで始まりました。

私自身が子どもだったころ、セミもトンボもめつたにつかまえられない凶鑑のなかの夏の虫でした。でも、庭のあちこちにセミのぬけがらを見つめるような生活をしてみると、セミはトンボよりずっと小さな子にも親しめる虫だと知りました。

まず、セミは地中から出た場所にぬけがらを残していきます。白モクレンの枝や幹に、柿の葉の裏に、生け垣のてっぺんと、早起きをすれば小さな子の手の届くところにもたくさん見つかります。一夏で、幼稚

園中の子にあげられるだけ（六十数個）集めたこともありました。ぬけがらは、まだセミをとることができない子にとって、手のひらのなかに「セミ」を確かめることができるうれしいものでした。

つぎに、セミは鳴いて自分の居場所を知らせてくれます。大きな桜の木の下で、小さな子が、目をこらしてその場所を確かめ、網を探し、音を立てないように台を持って来て準備している間、鳴き続けて待っていてくれます。手に余る長い竿を振り回すのですから、結果の多くは失敗に終わっていたのですが、小学生になるころにはつかまえることができ、るまでに熟達していました。

セミは、そのときどきに、小さな子どもの相手を十分にしてくれていたのです。

(A)

幼 児 の 教 育

第九十六巻 第八号

(一九九七年八月号)

定価四六〇円(本体四三八円)

発行 平成九年八月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112東京都文京区大塚二一―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108東京都港区三田五―二―一

発売所 フレーベル館

〒113東京都文京区本駒込

六一―四―九

☎〇三―五三九五―六六一三(営業)

☎〇三―五三九五―一六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―二一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレー

ベル館にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。